

Urban Design Lab Magazine

2012 年度日本建築学会大会 in 名古屋 開催！

Architectural Institute of Japan Annual Meeting 2012

text_kashiwabara

9月12日から14日にかけて、今年度の建築学会が開催されました。3日間に渡り学会に参加したD3 ポンサンさんからの報告です！

D3 ウィチエンブラディット・ボンサン

去る9月12日（水）～14日（金）、名古屋大学東山キャンパスにて2012年度日本建築学会大会（東海）が行なわれました。残暑の中、都市デザイン研究室からは現役の学生に加えて、OBOGの参加が多数あり、個人の研究からプロジェクト活動報告等まで幅広くの発表がありました。

榎文彦先生設計で、1962年の学会賞受賞作の豊田講堂において、ご本人による特別記念講演「漂うモダニズム」が行なわれた他、興味深いパネルディスカッション、研究集会、シンポジウム、ワークショップ、見学会等が盛りだくさんで、アカデミックな刺激を受けっぱなしの三日間でした。登録参加者9900人超えの本学会の期間中は、会場となった名古屋のまちが関係者で溢れかえっていました。唯一残念だったのは、名古屋は東京から日帰りの参加が可能な距離にあるため、恒例の研究室OBOG交流会はそれほど盛り上がりませんでした。来年度の北海道大会に期待したいと思います。



▲豊田講堂前にて記念撮影！

日	発表者	題目
9/12	神原康介	専門性の異なる多主体連携による登録有形文化財申請プロセスの実態 新宿区神楽坂における実践を通して
	鄭一止	千葉県館山におけるエコミュージアムの実践手法に関して 学習活動を起点とした「場所の記憶」のグルーピング
	王新衡	台湾における住民主導による近代的製糖鉄道関連遺産の保全運動 嘉義県新港郷の頂菜園を事例に
	松本綾	歴史的町並みとその周辺地域における震災被害の実態 東日本大震災後の佐原における復興まちづくりに関する研究 その1
	安東政晃	被災実態の展示を通じた地域内外での情報共有の試み 東日本大震災後の佐原における復興まちづくりに関する研究 その2
	田中暁子	大槌町の都市形成史にみる市街地と海の関係の変化 大槌町の風景再生に向けた文化資源調査 その1
	森朋子	岩手県大槌町における記憶再生プロジェクトの試み 大槌町の風景再生に向けた文化資源調査 その2
9/13	V・ボンサン	タイ・バンコクの宗教施設の保全に関する調査研究 宗教施設の管理運営体制からみる三つの宗教コミュニティの違い
	浅野純子	回遊性向上を目指した社会実験「アーバンステーションカゴシマ」に対する評価と今後の展望
	江口久美	ギリシアの2002年の古物及び文化遺産の保護に関する法に関して 対象・分類に関する第1章について
	野原卓	建築都市公開プログラム「オープンハウス」を用いたシティプロモーションに関する研究 その1 英国ロンドン OpenCity の活動と世界的ネットワーク Open House Worldwide の取り組みについて
	李璠	Research on Spatial Structure and Utilizing Patterns of the Exterior Space of Commercialized Residential Street in Historical Urban Area of Beijing A Case Study of Nanluoguxiang Street
9/14	永瀬節治	地域の主体による「うちめぐり」の実践と展開に向けた考察 観光と生活の融合をめざした足助まちづくりに関する研究 その1
	石井かおる	まちなかの生業調査から浮かび上がる地域圏の可能性 生活と観光の融合を目指した足助まちづくりに関する研究 その2
	矢吹剣一	歴史的市街地における空き家再生活動に関する研究 空き家活用マネジメントと地区再生への展開に着目して
	大森文彦	清水港における港湾成立の歴史と歴史的資産に関する研究



佐原 PJ SUR18 ついに完成！

SUR18 of Sawara PJ has just been Published!

M2 安東 政晃

2011年度の佐原PJの報告書がGCOEの活動報告書、SUR18として発行されました。工学部11号館のGCOE本部に並んでおりますので、気になる方はぜひ、お手元にお納めいただければと思います。昨年度の活動は、佐原の震災被害の調査と復興への足取りの記録が主でした。報告書を作成する作業は、年間の活動をまとめると同時に、1年間を省みる時間にもなりました。「あの時もっとこうしておけば良かった。」なんて思いつつ新たに資料や図版を作成し、それによって改めて佐原について知る・気づくこともありました。普段からこういったまとめ作業を行うことで、まちについての理解も深まり、年度末の忙しさも軽減し、一石二鳥だなと思いました。（言うは易し、ですね笑。）



▲昨年度の佐原PJメンバーと市役所の方々



▲SUR18の表紙

OB・OGめぐり第11弾！

The news from OB・OG of UD Lab. Vol.11！

都市デザイン研究室のOB・OGの方々に、卒業後の仕事や活動に関して寄稿して頂く企画です。11回目の今回は、平成20年に修了された筒井直央さんです。

私は現在、大成建設都市開発本部で、都内の複合施設開発案件を推進する業務に携わっています。都市開発諸制度や法規制を加味した計画の検討、行政協議、各種必要手続き、事業収支の検討、開業までのスケジュール管理等を、クライアントや社内の設計、施工部隊などと共にチーム一丸で取組んでいるところです。

案件に取り組む初期段階では、クライアントのニーズと併せて、この場所にあるべき機能や景観などを考える場面がありますが、街歩きをしたうえで、都市スケールから計画地を多角的に捉え、開発計画を構想する作業は、研究室で取組んだプロジェクトでの過程そのものです。修了後も開発という仕事を通して、より良い都市づくりの一役を担えることが、大きなやりがい、楽しみとなっています。

事業性や詳細を詰める段階では、視野がすっかり狭くなったり、色々な葛藤を覚えることもあります。そんなとき、web上や書籍で目の当たりにした研究室の皆さん、先生方、OBの方々の活動や研究が、自分の取組んでいる仕事のやりがいや意義を見つめ



▲サラリーマンの街歩き

直すきっかけになることが良くあります。これからも研究室との繋がりにお世話になりながら、自分の「持ち場」で頑張っていきたいと思っています！

GCOE International Students WS in Bangkok

バンコクで行われた GCOE の国際ワークショップに M1 柏原が参加しました。



text_kashiwabara

8月29日(水)～9月10日(月)にかけて、タイのバンコクにて東京大学、北京大学、チュラロンコン大学の3大学合同により、"Regeneration"をテーマとしたワークショップが開催されました。バンコクのCBDに隣接する地区にある魚市場の移転後の再開発計画の提案を行う、といった内容です。対象敷地はCBDから近いことや魚市場の大架構等の特徴的な構造物があること以外にも、交通利便性が良いこと、周辺に強いコミュニティがあること、今もまだ水上交通の要として利用されているチャオブラヤー川に接していることなど、大きなポテンシャルをもった場所でした。

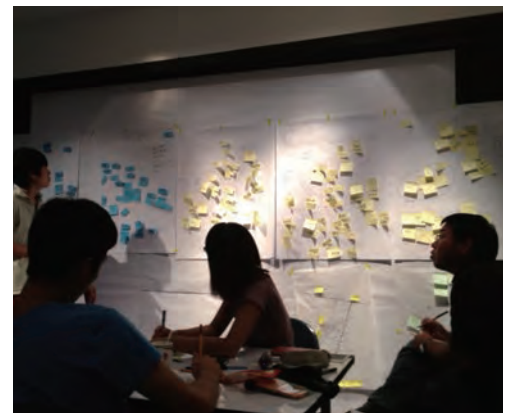
WSの前半は、2日間に渡る充実したレクチャーの後、3カ国の学生で4～5人のチームを作り、敷地の調査と開発ビジョンに対する意見交換を行いました。後半では各国ごとのチームに分かれ、敷地に対する具体的な提案を詰めていきました。国ごとのチーム編成とはいえ、建築・都市工・新領域と異なる3専攻から集まったメンバーの日本チームは、専攻の違いからくる意見や考え方の違いに苦闘しながらも7人全員での議論を重ね、限られた時間の中で全員が納得のいく提案を行えたと思います。



▲WSの舞台となった Wat Yannawa



▲日本チームの最終プレゼンテーション



▲チュラロンコン大学にてWS中...黒瀬助教も参加！

9・10月の予定

Information

- | | |
|------------|--------------------|
| 9月28日 | 第7回研究室会議 |
| 9月29日～30日 | 靱PJ全国まちづくり会議 in 神戸 |
| 10月10日 | 第8回研究室会議 → 新入生歓迎会 |
| 10月12日～14日 | 佐原PJ 大祭での展示 |

✧ 編集後記

柏原 葉那

夏休みは、国際WS(上の記事参照!)で2週間に渡りバンコクに滞在していました。実は、バンコクに行くのは5度目!初めて行ったのは9年前。それから、数年おきに訪れる度、大きな国際空港が開港したり、地下鉄やエアポートラインの開通、たくさんの巨大ショッピングモールがオープンしたりと、新しいものがどんどん出来ていて、エネルギッシュなバンコクに驚かされます。次に行く時には何が出来ているだろう...と、まだ行く予定もないのに考えてしまいます。